

平成 30 年度第 2 回岡崎市動物行政推進協議会会議録

日 時 平成 31 年 2 月 6 日 (水) 14 時 00 分～15 時 30 分

場 所 動物総合センター 研修室

出席及び欠席者 出席 12 名 (石原委員、小芦委員、合田委員、庄村委員、杉浦清丸委員、杉浦智恵子委員、古澤委員、牧委員、矢部委員、幸村委員、脇田委員、渡邊委員)

会議次第

2 協議事項

(1) 平成 30 年度動物行政推進計画年度目標に対する現況

(説明)

事務局より平成 30 年度動物行政推進計画年度目標に対する現況について説明を行った。

(協議内容)

- ・「環境教室知っていますか？外来生物」とはどのような内容の講座か？ (杉浦清丸委員)
→外来生物とはどのようなものか。アライグマ、ヌートリア、ブラックバスを例に挙げながら最終的には生物多様性についても話をする。学校の授業の 1 コマで行っている。(事務局)
ミドリガメやアライグマ等以前愛護動物で飼われていた動物が外来生物となっている。(会長)
- ・最近、池の水を抜くことをテレビで行っている。今は世間の注目もあるので、これを期に 5 校と言わずもっと実施してほしい。(杉浦清丸委員)
- ・外来生物の捕獲について、資料では単年度の集計となっているが、効果は出ているのか？
また、生活被害と農作物の被害でわけているが、相談窓口は動物総合センターでよいのか？ (庄村委員)
→外来生物の捕獲については、今年は減っている。ただし、生息調査をしていないので市全体で減っているかはわからない。(事務局)
相談は動物総合センターで受け付けているが、相談のあった各課でも受け付けている。(事務局)
- ・外来生物の捕獲は動物総合センターで行っているのか。(庄村委員)
→生活被害については檻をかけるのは動物総合センターだが、受付は環境保全課で行っている。
農作物被害については、猟友会が有害鳥獣として捕獲している。林務課から猟友会に依頼し実施している。(事務局)
- ・アライグマを大事にしている国はあるか？ (古澤委員)
→ヨーロッパでもアライグマの被害が出ていると聞いている。(会長)
- ・生物多様性と外来生物の駆除は相反するが、中学生にはどのように教えているか？ (石原委員)
→50 分の限られた時間では難しい。日本にアライグマ等の外来生物が入ると最終的には日本固

有の生物が滅ぼされ、世界中が同じようになってしまう。生物多様性がなくなると説明している。(事務局)

・愛護動物と外来生物をどこで線を引くかが問題となる。猫も庭を荒らすなどの被害があるが、アライグマのように処分されず、保護される。それは人間の都合なのでいのちの教育にちからを入れてほしい。(杉浦智恵子委員)

・外来生物について一般市民にも講演会等をしてほしい。(合田委員)

→講演会を行う予定がある。(事務局)

・鳥インフルエンザ対策の改正マニュアルはホームページ等で見られるのか？

→マニュアルは市の職員がどのように動くかのマニュアルとなっているので、公開はしていない。(事務局)

(2) その他

・豚コレラが豊田市で発生したが岡崎市の対策は？(会長)

→対策本部を立ち上げ、対応を確認した。鳥インフルエンザに準ずることとなる。(事務局)